

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

三方湖サイト

— 福井県三方上中郡 —

三方湖は、隣接する水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖と共に三方五湖と総称されます。5つの湖の水は、その立地によってそれぞれ異なる塩分を呈し、最も上流に位置する三方湖の湖水はほぼ淡水です。主な流入河川は鱒（はす）川及び別所川で、三方湖の水は水路を通じて水月湖に流出します。本湖は、若狭湾国定公園内に位置し、国指定の名勝及びラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省により外来種の駆除や自然護岸再生等の三方五湖自然再生事業が実施されています。



調査地の景観
(2023年10月撮影)



前回の調査では確認されなかったシマイサキ
(2023年10月撮影)

2023年度の調査結果概要

三方湖サイトでは、2017年度の初回調査以来、2巡目の調査となります。三方湖南岸に設けた調査地点において、1回目の調査を7月2日～3日に、2回目の調査を10月14日～15日に実施しました。両調査回共に調査地の水位が約1.5mと前回の調査時より高く、胴長を履いて入水することができませんでした。そのため、投網とタモ網を用いた定性調査は実施せず、補足的にかご罟を設置しました。

1回目と2回目の調査で合計10種の魚類が確認されました。1回目調査では9種、2回目調査では2種が確認されました。前回の調査では確認されていなかったクルマサヨリ、アベハゼ、シマイサキが確認されました。環境省レッドリスト2020に掲載されている在来種としては、ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）とクルマサヨリ（準絶滅危惧）が確認されましたが、前回確認されたヤリタナゴ（準絶滅危惧）は採集されませんでした。外来種としては、国外外来種のブルーギル（特定外来生物）が確認されました。

2回目の調査ではほとんど漁獲物がなく、魚影も薄かったため、水位や塩分環境の影響も含めてモニタリングの結果を注視していく必要があります。

【調査者・調査協力者】

富永 修・佐々木源尚・浮田智波・長谷川颯（福井県立大学）、
横井謙一（日本国際湿地保全連合）



前回の調査では確認されなかったクルマサヨリ（準絶滅危惧）
(2023年7月撮影)



船上から定置網を回収する調査員
(2023年10月撮影)



ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）
(2023年7月撮影)



前回の調査では確認されなかったアベハゼ
(2023年7月撮影)

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

宍道湖サイト

— 島根県出雲市 —

宍道湖は、島根県東部に位置する汽水湖で、海跡湖に分類されます。本湖には、斐伊川をはじめ、平田船川や新建川等、約17河川が流入し、湖水は、大橋川から中海に流出します。また、大橋川の他にも、人工的に開削された佐陀川を通じて日本海に直接湖水が流出しています。宍道湖には、ボラやスズキ、シラウオなどの汽水性魚類とギンブナやコイ、カワヒガイなどの純淡水性魚類の両方が生息しています。さらに、宍道湖の名前を冠するシンジコハゼの日本における代表的な生息地です。本湖は、宍道湖北山県立自然公園及びラムサール条約湿地に登録されています。シジミ漁が盛んに行われており、名産品となっています。



調査地の景観
(2023年6月撮影)



湖岸で確認されたアミ類の大群
(2023年6月撮影)

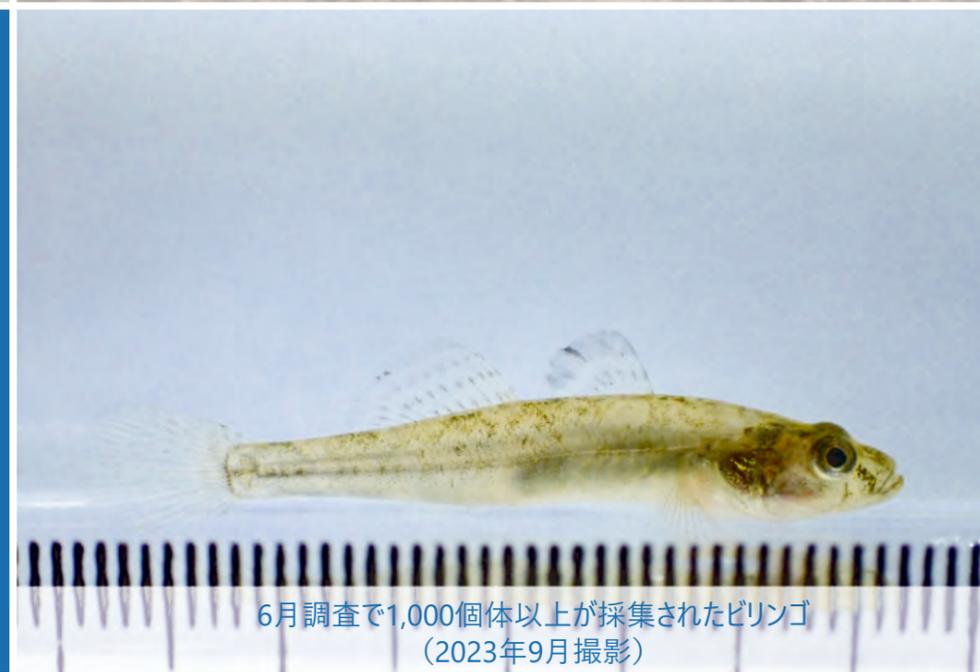
2023年度の調査結果概要

宍道湖サイトは、2017年以來、2巡目の調査となります。宍道湖西岸に設けた調査地点において、1回目の調査を6月27日～28日に、2回目の調査を9月26日～27日に実施しました。調査マニュアルに従い、定置網に入った魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに個体数を数え、湿重量を測定しました。また、定置網に入りにくい魚種を採集するため、投網とタモ網を用いた調査も行いました。

今年度は、定置網を4地点に設置しましたが、その内の1地点ではいずれの調査でも魚類は採集されませんでした。調査の結果、1回目の調査で13種、2回目の調査で12種、合計で18種の魚類が確認されました。1回目の調査では湖岸に多量のアミ類が確認され、定置網で1,000個体を超えるビリンゴが採集されました。また2回目の調査では、前回確認されなかった汽水性魚類のシマイサキやガンテンイシヨウジが確認されました。環境省レッドリスト掲載種としては、前回と同様にシンジコハゼ（絶滅危惧II類）が確認されました。外来種は国外外来種のブルーギルとタイリクバラタナゴが確認されました。

【調査者・調査協力者】

宮永 桜・佐々木 興・高橋由也（宍道湖自然館ゴビウス）、斉藤憲治（水生生物保全協会）、横井謙一・立花道草（日本国際湿地保全連合）



6月調査で1,000個体以上が採集されたビリンゴ
(2023年9月撮影)



投網を打つ調査員
(2023年6月撮影)



主に汽水域に生息するシマイサキ
(2023年9月撮影)



汽水性魚類であるガンテンイシヨウジ
(2023年9月撮影)